

(10) 四 国



四国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

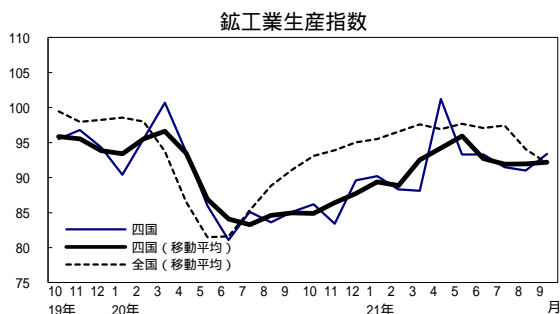
前回からの主要変更点

	前回(令和3年8月)	今回(令和3年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、化学・石油石炭製品が減少したこと、輸送機械が減少したこと等により、前期比4.1%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
化学・石油石炭	22.1	17.2	7.8	15.7	20.2	10.6
食料品	13.8	7.1	5.6	0.3	7.5	2.7
電気機械	12.8	10.8	4.3	3.7	2.4	0.4
汎用・生産用機械	11.3	9.0	5.8	2.6	11.3	3.7
輸送機械	7.9	4.7	11.7	0.5	10.0	6.3
鉱工業	100.0	7.9	4.1	1.9	0.5	2.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

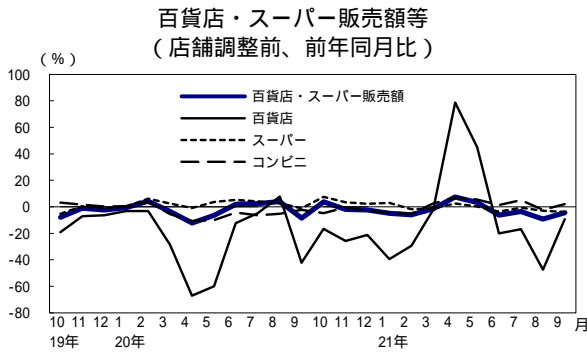
7 - 9月期は前期比1.5%減となった。月別にみると、7月は前月比1.1%減、8月は同1.7%減、9月は同0.7%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比5.8%減となった。月別にみると、7月は前年同月比3.5%減、8月は同9.3%減、9月は同4.5%減となった。

百貨店は、7 - 9月期は前年同期比25.6%減となった。

スーパーは、7 - 9月期は同2.5%減となった。

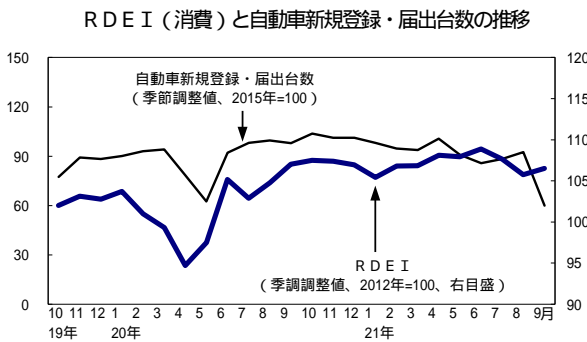


	2021年7-9月	2021年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.5	1.1	1.7	0.7
百貨店・スーパー(*2)	5.8	3.5	9.3	4.5
百貨店(*2)	25.6	16.9	47.4	9.3
スーパー(*2)	2.5	0.7	3.0	3.9
コンビニ(*2)	1.5	5.0	2.2	2.0
乗用車(*3)	20.5	10.8	6.2	38.8
(季節調整値)(*3)	13.2	2.9	4.7	35.2

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

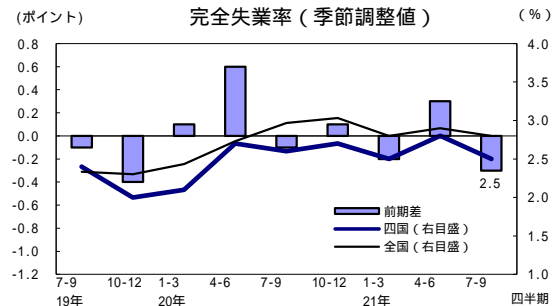
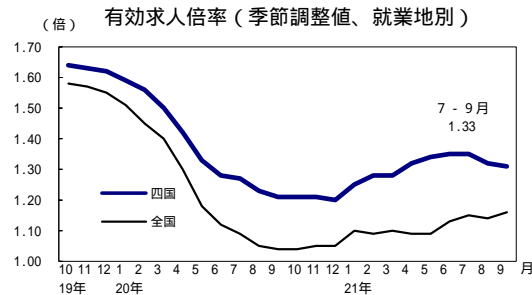
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

10. 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少したが、客の様子には特に変化がない(美容室)。
			・半導体不足と東南アジアからの部品が入荷しないため、新車の納期が不透明となっている(乗用車販売業)。
企業 動向 関連			・公共工事の引き合いはあるが、当社に合う適当な物件は少ない(建設業)。
			・再生可能エネルギー関連の事業については、特にバイオマス部門で動きが大きく、売上が増加している(電気機械器具製造業)。
雇用 関連		・新規求人数や新規求人倍率が僅かに減少しているが、紹介件数や就職率は上昇している(職業安定所)。	
		・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているものの、派遣の依頼数が減っており景気が悪くなっている(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント		：新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、客が少しずつ戻ってきている。急に寒くなってきたことから、冬物の動き出しが例年より早くなっている(その他小売[ショッピングセンター])。 ：当県独自の新型コロナウイルス警戒レベルが下がり、飲食店等への時短要請が解除されたことで、来客数が増加している(観光遊園地)。	
先行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスの感染状況の改善により、個人の旅行需要は一定程度回復する(観光型旅館)。
			・このまま回復してほしいが、新型コロナウイルスの感染が落ち着くとは思えない。10月からたばこのほか各種値上げが迫っており、生活費の圧迫が懸念され、消費が上向くかは不透明とみる(コンビニ)。
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルスの感染状況が良くなる一方、原油やナフサ単価は高騰している。今後もこの傾向が続くと思う(化学工業)。
			・ワクチン接種率上昇等に伴い新型コロナウイルス新規感染者数が大きく減少傾向にあるため、若干イベントの再開や、客から広告受注も見込まれる(広告代理店)。
	雇用 関連		・周囲の企業の状況から、各業種において求人数が少しずつ増加する見込みである(求人情報誌)。
その他の特徴 コメント		：新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、12月のグランドオープンを抑え、更に多くの来客を見込んでいる。また、観光客も戻ってくると思われる(百貨店)。 ：忘年会を中止する企業が多く、売上増加は見込めない(その他専門店[酒])。	

(D I) 現状・先行き判断D I (四国)の推移(季節調整値)

